

# 淡路島中・南部地域の秋季直翅類観察記録

竹 田 俊 道

1986年、9月13日～15日、直翅類研究グループが、論鶴羽ダム憩いの広場・三原町サイクリングターミナルセンターで合宿を行ない、筆者も参加して、論鶴羽ダム周辺、論鶴羽山、阿万吹上ノ浜、福良湾周辺、先山等の調査を行なった。

島内未記録を含め、多くの成果をあげることができたので、以下にその結果を記した。

尚、報告するにあたり、大部分を河合、市川両氏のまとめを転載させて頂いたこと、又、声による種の同定は、その道の権威・松浦一郎氏によった事を、併せておことわりする。

本来、学名を併記するのが、たてまえであろうが、まだ研究段階で、学名の記されていないものも種々あり、詳細は今後に変更するとして、今回は和名のみを列挙するにとどめる。

## 9月13日、論鶴羽ダム周辺

バッタ

トノサマバッタ、ヒナバッタ、オンブバッタ、ハラヒシバッタ

キリギリス

セスジツユムシ、ヤマクダマキモドキ、サトクダマキモドキ、ハヤシノウマオイ、ハタケノウマオイ、クサキリ、ツユムシ、セスジツユムシ、

コオロギ

エンマコオロギ、ハラオカメコオロギ、モリオカメコオロギ、ミツカドコオロギ、ツツレサセコオロギ、クマコオロギ、クマスズ、スズムシ、マツムシ、カンタン、ヤマトヒバリ、クサヒバリ、カヤヒバリ。

その他、この日、由良地区で、ヒメクダマキモドキ（採集）、台湾エンマコオロギ（鳴声）を、加納氏が確認。

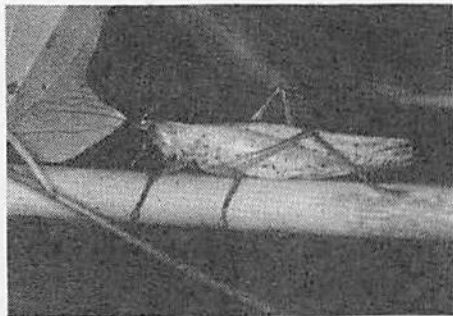
## 9月14日・論鶴羽山（上田池ダムより・頂上・灘方面下山の行程を含む）

バッタ

セトウチフキバッタ・オンブバッタ・ヤセヒシバッタ・ノセヒシバッタ・モリヒシバッタ・ヒナバッタ・ショウリョウバッタ・ツチイナゴ（幼虫）

キリギリス

サトクダマキモドキ、ヤマクダマキモドキ、ヒメツユムシ、ヒメクサキリ、ヒサゴクサキリ（食痕多し）、ウマオイ、アシグロツユムシ、オナガササキリ、ヒメギス、ハヤシウマ、マダラカマドウマ（幼虫）、コバネコロギス、ササキリモドキ（SP）。



ヒサゴクサキリ(♀)——福良にて——

(Photo: 桂 孝次郎)

## オオロギ

エンマコオロギ、ハラオカメコオロギ、モリオカメコオロギ、ツツレサセコオロギ、クチナガコ  
オロギ(声)\*、マダラスズ(声)、ヒメスズ、シバスズ(声)、ヒゲシロスズ(声)、ヤマトヒバリ、ク  
ラスズ(声)、クマコオロギ(声)、ミツカドコオロギ、アオマツムシ(声)、マツムシ(声)、アシジマ  
カネタタキ。

## その他

エダナナフシ、ヒナカマキリ(幼虫多し)ハラビロカマキリ、モリチャバネゴキブリ、キスジゴ  
キブリ。

## 吹上ノ涙

バッタ  
ヤマトマダラバッタ、クルマバッタモドキ、ヒナバッタ、トノサマバッタ、ショウリョウバッタ、  
ショウリョウバッタモドキ。

## キリギリス

キリギリス(声)、セスジツユムシ、ツユムシ(幼虫)、ホシササキリ。

## コオロギ

ハマスズ、シバスズ、エンマコオロギ、ツツレサセコオロギ、ハラオカメコオロギ、マツムシ。

## 福良浜周辺

バッタ  
オンブバッタ、ショウリョウバッタ、ショウリョウバッタモドキ。

## キリギリス

ヒサゴクサキリ(産卵が見られた)、シブイロカヤキリモドキ(幼虫)、セスジツユムシ、ハヤ  
シウマオイ、ヤブキリ、キリギリス、ミドリササキリモドキ、オナガササキリ、コバネコロギス。

## コオロギ

ヤチスズ(声)、クチナガコオロギ、ツツレサセコオロギ、ハラオカメコオロギ、モリオカメコオロ  
ギ(声)、エンマコオロギ、クマコオロギ(声)、クサヒバリ、アオマツムシ(声)、マツムシ(声)、ヒロバ  
ネカンタン。

## 9月15日・先山

バッタ  
サトウチフキバッタ、イボバッタ、ヒロバネヒナバッタ(幼虫)

## キリギリス

ササキリモドキ(SP) ♂♀、ヤマクダマキモドキ、サトクダマキモドキ、ヤブキリ、ヘリグロ  
ツユムシ、ウオマイ、ヒメツユムシ、ハヤシウマ、ハネナシコロギス。

## コオロギ

ツツレサセコオロギ(声)、カンタン。

## その他

エダナナフシ、ヤスマツトビナナフシ、ヒナカマキリ(幼虫)。

(\*)は鳴き声による確認。